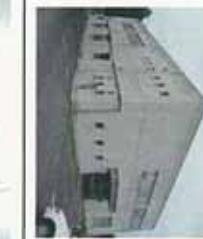
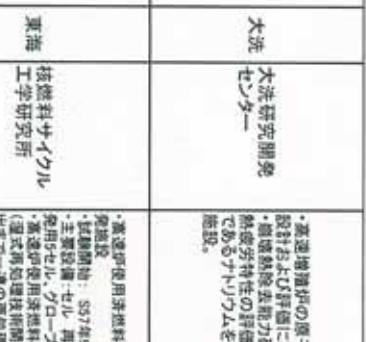
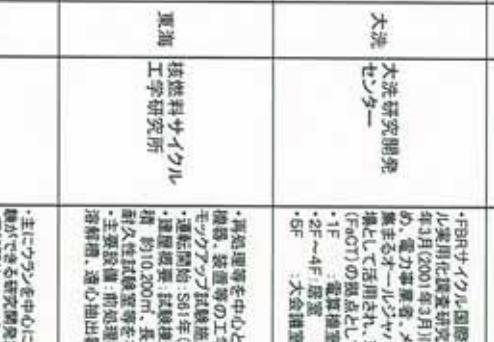


14 耐震試験施設 (メカトロニクス応用研究棟)	大洗 大洗研究開発 センター		<p>・地震時の構造物の応答挙動を調べる施設 ・6トンの試験機を載せて、水平1方向、上下方向に最大3Gを揺らすことのできる強度試験装置(往復式)と配管実験の動的荷重に対する強度試験装置(往復式) ・耐震健全性の評価手法の開発及び免震技術開発を実施</p> 	有 仮団: CEAサウザイ研究 所 地盤工学研究所 TAMARIS
15 空気冷却熱過渡試験施設	大洗 大洗研究開発 センター		<p>・構造物試験体に熱過渡荷重を与えて、き裂の発生及び成長を調べる施設 ・熱過渡荷重に対する設計手法の開発を実施</p> 	海外における同様 (類似)施設無
16 大気中構造材料試験施設 (Na技術開発第3試験棟)	大洗 大洗研究開発 センター		<p>・材料強度基準の策定のためのデータ取得を目的とした施設 ・構造構造材料に対する引張試験、クリープ試験、疲労試験、クリープ疲労試験を実施。</p> 	有 クリープ試験棟、クリープ 疲労試験棟、内圧クリ ープ試験棟等は、材料 開発に係わる一般的な 試験室であるため、海外 にもあると考えられる。ナ トリウム環境での材料試 験棟も、SFRIに係る研 究開発も進めている国々 にはあると予想される。
17 ナトリウム中構造材料試験施設 (Na技術開発第2試験室)	大洗 大洗研究開発 センター		<p>・高還原率の構造材料及び引張材の強度および挙動に及 ぼすナトリウム環境の影響を把握することを目的とした施 設 ・高還原率構造材料に対する引張試験、クリープ試験、疲労 などの材料特性データを収集するための高温ナトリウム中 における疲労試験、クリープ試験及びクリープ疲労試験等 を実施</p> 	有 クリープ試験棟、クリープ 疲労試験棟、内圧クリ ープ試験棟等は、材料 開発に係わる一般的な 試験室であるため、海外 にもあると考えられる。ナ トリウム環境での材料試 験棟も、SFRIに係る研 究開発も進めている国々 にはあると予想される。
18 ナトリウム機器材料研究開発試験施設	大洗 大洗研究開発 センター		<p>・高還原率燃料被覆管機器材であるODS鋼等の強度特性 を評価する施設。 ・ナトリウム中保食、食管移行試験、及び強度特性を評価す ることともに、材料仕様の選定や材料強度基準の策定に資す ることを目的として内圧クリープ破壊試験を実施。</p> 	有 クリープ試験棟、クリープ 疲労試験棟、内圧クリ ープ試験棟等は、材料 開発に係わる一般的な 試験室であるため、海外 にもあると考えられる。ナ トリウム環境での材料試 験棟も、SFRIに係る研 究開発も進めている国々 にはあると予想される。
19 炉体構造水流動試験施設	大洗 大洗研究開発 センター		<p>・高還原率炉の原子炉容器器、換器、配管の熱流動に関する 設計および評価の施設。 ・ナトリウム中保食、食管移行試験、及び強度特性を評価す ることともに、材料仕様の選定や材料強度基準の策定に資す ることを目的として内圧クリープ破壊試験を実施。</p> 	有 クリープ試験棟、クリープ 疲労試験棟、内圧クリ ープ試験棟等は、材料 開発に係わる一般的な 試験室であるため、海外 にもあると考えられる。ナ トリウム環境での材料試 験棟も、SFRIに係る研 究開発も進めている国々 にはあると予想される。
20 照射燃料試験施設(AGE)	大洗 大洗研究開発 センター		<p>・照射後高還原率燃料ペレットの貯蔵・保管設備を有する国内唯一の施設。 ・高還原率の適用範囲を有する国内唯一の施設。 ・高還原率燃料の基礎材料(融点、熱伝導度等)、照射による 変化を燃料設計・開発へ反映することが役割。 ・世界で唯一の照射高還原率燃料融点測定装置を有する。 ・もちろん、実証炉で用いるマイナー・アフチニアード燃料の研究 実験装置が可能な設備と照射試験実験を有する。</p> 	有 クリープ試験棟、クリープ 疲労試験棟、内圧クリ ープ試験棟等は、材料 開発に係わる一般的な 試験室であるため、海外 にもあると考えられる。ナ トリウム環境での材料試 験棟も、SFRIに係る研 究開発も進めている国々 にはあると予想される。
21 照射材料試験施設(MMF)	大洗 大洗研究開発 センター		<p>・照射後高還原率燃料の貯蔵・保管設備を有する国内唯一の施設。 ・照射した伊丹心材料、構造材料及び制御棒等の材料の 照射挙動評価を設計・開発へ反映するこれが役割。 ・照射挙動評価の他、核燃料物質で汚染された照射後試 験片の徹底評価、物性試験が実施できるという特長があ る。世界で唯一、照射後被覆管の急速加熱ルースト試験が可 能。</p> 	有 クリープ試験棟、クリープ 疲労試験棟、内圧クリ ープ試験棟等は、材料 開発に係わる一般的な 試験室であるため、海外 にもあると考えられる。ナ トリウム環境での材料試 験棟も、SFRIに係る研 究開発も進めている国々 にはあると予想される。
22 照射燃料集合体試験施設(IMEF)	大洗 大洗研究開発 センター		<p>・照射後高還原率燃料集合体及び燃料ビンの貯蔵・保管設備を有する国内唯一の施設。 ・照射した伊丹心材料、構造材料及び制御棒等の材料の 照射挙動評価を設計・開発へ反映するこれが役割。 ・照射挙動評価の他、核燃料物質で汚染された照射後試 験片の徹底評価、物性試験が実施できるという特長があ る。世界で唯一、照射後被覆管の急速加熱ルースト試験が可 能。</p> 	有 クリープ試験棟、クリープ 疲労試験棟、内圧クリ ープ試験棟等は、材料 開発に係わる一般的な 試験室であるため、海外 にもあると考えられる。ナ トリウム環境での材料試 験棟も、SFRIに係る研 究開発も進めている国々 にはあると予想される。

23	伝熱流動試験施設	大洗 大洗研究開発 センター	<ul style="list-style-type: none"> ・高速増殖炉の原子炉容積、機器、配管の熱流動に関する設計および評価に不可なアトリウム熱流動試験設備。 ・既存熱流動実験設備に必要な自然循環特性、高サイクル熱吸収特性の評価等を行うために、高速増殖炉の冷却却材であるナトリウムを用いた熱流動試験が可能な国内唯一の施設。
24	高レベル放射性物質研究施設(CPF)	東海 核燃料サイクル 工学研究所	 <ul style="list-style-type: none"> ・高速炉使用済燃料、高レベル放射性廻路を使用できる研究開発施設 ・試験開始：S57年6月（ホット試験） ・主要設備：セル・再処理研究・隔離用セル、ガラス固化研究簡易自走セリ、グローブボックス、26台・フード、14台（高活性使用済燃料隔離設備：使用済燃料を用いてせん断から抽出式再処理設備：使用済燃料を用いて再処理工程の試験子データの取得等） ・高活性使用済燃料隔離設備：使用済燃料を用いて再処理工程の再処理工程の試験子データの取得等） ・高レベル放射性廻路の処理・処分に関する試験データの取得
25	リサイクル機器試験施設(RETF)	東海 核燃料サイクル 工学研究所	 <ul style="list-style-type: none"> ・高速炉燃料再処理技術の確立に向けた研究開発のために、「もじゅう」等の実験炉の高速炉使用済燃料混合体を用いて、高速炉燃料再処理用の新型機器の工学規模のホット環境下で再処理操作を行い、その結果を得るために計画された施設 ・「アトリウム敷設技術」と「保守研磨施設」からなる。 ・高活性使用済燃料の搬出外に隣接しておらず、もじゅう原発建物ともに「もじゅう」の敷地外に隣接しておらず、もじゅう原発の運営組織が専ら外に隣接しておらず、もじゅう原発に「アトリウム敷設技術」では「アトリウムの取扱、管理技術、平成12年に着工。その後、もじゅう事故、アスファルト事故を受け、平成13年に第一期工事完了をもって建設中断。 ・FBRサイクルに間に合う研究開発の進捗状況等を踏まえつづけ、RETFの利用を広く検討する予定。
26	FBRサイクル総合研究開発施設	秋葉 教育本部	 <ul style="list-style-type: none"> ・高速増殖炉サイクル技術の確立に向けた研究開発のため、高活性炉の機器や利用機器の保守技術を行なうための施設 ・「アトリウム敷設技術」と「保守研磨施設」からなる。 ・高活性使用済燃料の搬出外に隣接しておらず、もじゅう原発建物ともに「もじゅう」の敷地外に隣接しておらず、もじゅう原発の運営組織が専ら外に隣接しておらず、もじゅう原発に「アトリウム敷設技術」では「アトリウムの取扱、管理技術、平成12年に着工。その後、もじゅう事故、アスファルト事故を受け、平成13年に間に合う研究開発の進捗状況等を踏まえつづけ、RETFの利用を広く検討する予定。
27	FBRサイクル国際研究開発センター	大洗 大洗研究開発 センター	 <ul style="list-style-type: none"> ・FBRサイクル国際研究開発センターは高速増殖炉サイクル実用化評議会研究（以下、「議論研究」）の拠点として平成13年4月（2001年3月）に竣工。本施設は、原子力機関をはじめ、電力事業者、大学等の各研究機関の研究者が集まるオールジャパン体制にて議論研究を行なう共同研究拠点として活用され、現在はFBRサイクル実用化評議会議長（FIC）の監修点として機能的に活用されている施設である。 ・TF・電算機室等 ・2F～4F・研究室 ・5F・大会議室等
28	実規模開発試験室	東海 核燃料サイクル 工学研究所	 <ul style="list-style-type: none"> ・開発・修理等を中心とした核燃料サイクル施設で使用される機器、装置等の工学規模での開発を目的としたコードモックアップ試験施設 ・運転開始：S61年（1981年）に竣工。 ・運転要請：試験機、骨格構造、事務機、鉄骨・鋼筋混凝土構造、約10,200m²、長崎市半島試験場フィールド、長期燃素主張設備、前処理機器（後燃式解体機、せん断機）、運転溶接機、遠心抽出器、両端型サーキュレーションブレーカー
29	応用試験棟	東海 核燃料サイクル 工学研究所	 <ul style="list-style-type: none"> ・主にウランを中心に、ビーカースケールから工学規模までの炉内評価による研究開発施設 ・運転開始：S58年 ・収取る放射性物質、核燃料物質（天然ウラン、重水ウラン、トリウム及びその化合物）、收制性同位元素 ・主な設備：抽出システム試験装置、高純度試験装置、溶融堆積・液化凍結等：高活性使用済燃料隔離装置（由出工芸技術、乾式炉冷却技術、材料技術）、GJ製錬、R&D用いた実習等
30	燃料材料検査施設	東海 核燃料サイクル 工学研究所	 <ul style="list-style-type: none"> ・高速増殖炉型炉「もじゅう」用、高濃度燃料「常温炉」用のMOX燃料製造に供する部材の受け入れ・検査を行なうための施設。 ・引張り試験機、内圧破裂強度等からなる。
			<p>海外における同様 (類似)施設の 情報無し</p>